

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
中高一貫教育の推進	<p>①連携型中高一貫教育における中学校との相互交流を通して学力の向上を図る。</p> <p>②連携中学校との交流を活性化するとともに、中学生や保護者、地域へ本校教育活動に関する情報発信に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「学校では、生徒の基礎学力の向上に向けた取組が行われている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②「学校からの通知や便り、ホームページなどは本校理解に役立っている」と思う保護者の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 交流授業を年間12回以上実施する。</p> <p>①-2 連携3校での参観（公開）授業を5教科で実施し、授業後評価を行う。</p> <p>②-1 ウォームアップガイダンスを5回以上実施する。</p> <p>②-2 阿波西だよりを年間2回発行し、近隣中学校や本校保護者に配布する。</p> <p>②-3 ホームページを活用し、学校紹介・部活動紹介の広報を行う。</p> <p>②-4 阿波西人権新聞を年間3回、保護者に配付する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は74.8%、「あてはまらない」15.3%、「わからない」9.9%であった。</p> <p>②「あてはまる」と答えた保護者の割合は76.9%、「あてはまらない」12.0%、「わからない」11.1%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 交流授業はどの教科も12回以上実施した。</p> <p>①-2 年間15回中高連携参観授業を実施した。参観授業後は各教科ごとに授業報告と評価を行った。</p> <p>②-1 連携中学校で5回実施することができた。</p> <p>②-2 近隣中学校の中学3年生及び本校保護者に配布した。</p> <p>②-3 授業や行事、部活動の様子は担当者が速やかに更新した。また学校紹介PRポスター、クリアファイルを作成し、近隣中学校等に配布した。</p> <p>②-4 人権新聞を年間3回発行し、全学年の保護者に配付することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>A</p> <p>（所見）</p> <p>高校入学前のウォームアップガイダンス、入学後の交流授業や参観授業を通して、生徒は基礎学力の向上を目指す意欲を高めている。しかしながら習熟度には個人差があり、学力定着のための対策が必要である。</p> <p>また、ホームページ更新は担当者が速やかに行った。今後も学校教育活動の広報とPRにつなげていきたい。</p>	<p>○中高一貫教育の交流授業では、高校入学前や入学後の生徒の状況を知ることができている。また、学習指導は教員自身の研修にもつながっている。生徒及び教員を成長させるための素晴らしい取組である。</p>	<p>○交流授業や参観授業、ガイダンス、教員による代表者会や部会など多数の活動計画により、中高双方の教員の指導力は生徒理解とともに向上している。</p> <p>また生徒の個性伸長を図るためには、中高一貫教育をより活性化させ、連携の成果を地域に発信することが必要である。魅力ある学校、地域から信頼される学校づくりに取り組む。</p>
学習指導の工夫・改善	<p>①確かな学力と身に付けた知識や技能を活用する思考力と実践力の育成を図る。</p> <p>②研究授業や参観授業、授業研究会等により、授業構想力と実践力の向上に努める。</p> <p>③ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「朝の学習や資格取得に向けて熱心に取り組んだ」生徒の割合が70%以上。</p> <p>②・③「授業が分かりやすい」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 朝のHR活動前の20分間学び直しトレーニングを実施し、「マナトレ」を活用することで義務教育段階の学習内容の確実な定着に向けて、個々の学力に応じた指導を全教員で行う。</p> <p>①-2 ワークショップの手法を生かした生徒主体の学習を実施する。</p> <p>①-3 漢字検定や英語検定、専門科目の資格取得をめざした学習を推進する。</p> <p>② 研究授業、参観授業及び授業研究会を積極的に実施する。</p> <p>③ ICTを効果的に活用した授業研究を行い、実践する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は1年生77%、2年生66%、3年生75%であった。</p> <p>②「あてはまる」と答えた生徒の割合は1年生76%、2年生57%、3年生70%、全体で67%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 各学年団毎に実施し、教員が個別指導していく中で一定の成果を得ることができた。学年末にはマナトレ検定を実施し、基礎学力定着の確認と自己評価につなげている。</p> <p>①-2 放課後補習等で実施した。</p> <p>①-3 検定の受検を奨励し、学習環境を整えていくなかで、検定合格につなげることができた。</p> <p>② 国語、数学、保健体育、福祉、HR活動において研究授業及び研究協議を実施した。</p> <p>③ 電子黒板や一人一台端末を活用した授業を行い、教員のICT活用指導力の向上に努めた。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>A</p> <p>（所見）</p> <p>朝の学習やティームティーチングによる授業は、生徒に分かりやすい授業として評価されている。また「マナトレ」の活用は、生徒が主体的に学習に取り組むための一つの手段として効果的であると考え、毎年実施している。</p> <p>研究授業の他、中高連携による参観授業では、ICTを活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びを意識した授業の実践を図った。</p>	<p>○タブレット端末の不具合の状況について把握し、今後に向けた対策を講じていただきたい。</p> <p>○ICTの有効活用を今後も進めていただきたい。</p>	<p>○生徒の特性や学力の多様化が見られる。生徒には早期に基本的な生活習慣や学習習慣を確立させ、明確な目的意識を持たせるとともに、教員は分かりやすい授業の創意工夫に努める必要がある。</p> <p>○タブレット端末は、今年度になり、故障が急増した。授業展開や内容について工夫しながら、生徒の学びの場を継続させる。</p>
進路指導の充実	<p>①キャリア教育を推進し、主体的に進路選択ができる能力・態度を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・③「学校では、生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②「学校では、読書する習慣を身に付けさせる活動が行われている。」と思う生徒の割合が70%以上。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・③「あてはまる」と答えた生徒の割合は、全体では67%となっており、1年生76%、2年生57%、3年生70%であった。</p> <p>②「あてはまる」と答えた生徒の割合は、23%にとどまっており、昨年度と同程度である。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p> <p>（所見）</p>	<p>○家庭学習時間の減少や読書離れの傾向がある。対策として、スマートフォンやゲームをさせない時間をつくる、図書館の開館時間を延</p>	<p>○社会環境の変化や少子高齢化など、生徒達を取り巻く環境は大きく変化し、キャリア教育の重要性は高まっている。次年度においても、外部機関や地域と連携を図り、イ</p>

	<p>②読書の奨励を図り、生涯にわたり学び続ける能力の育成を図る。</p> <p>③生徒一人一人に応じたきめ細かな進路指導の充実を図る。</p>	<p>徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 家庭学習の習慣を確立させ、学習時間全体平均を2時間以上にする。</p> <p>①-2 アカデミックコースは全員、他コースは希望者で補習を実施し、出席率が90%以上とする。3年生の就職希望者に補習を実施し、出席率が90%以上とする。</p> <p>② 生徒一人あたり年間読書量について昨年度比からの上昇を目標とする。</p> <p>③-1 卒業生との対談を実施する。（「先輩へのインタビュー」）</p> <p>③-2 個人面談を各学期に1回以上実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 家庭学習時間調査は、毎月実施している。12月の調査では、全体平均が1時間40分（4月は1時間52分）であった。</p> <p>①-2 予定どおり実施することができた。出席率も90%を超えた。</p> <p>②一人あたり年間貸出冊数は2.6冊（昨年度2.0冊）図書館利用回数は年間4.7回（昨年度6.8回）であった。（12月末現在）</p> <p>③-1 県内の事業所から14名の卒業生を招いた。インタビューを通して、仕事や職場の様子について体験談やアドバイスをいただくことができた。</p> <p>③-2 各学期毎に面接週間を設定し、予定通り実施した。</p>	<p>進路指導については、担任と学年主任、進路指導主事が密に連携し、生徒の進路実現のための充実したサポート体制を確立させている。各学年における補習の出席率も高い。</p> <p>図書館での貸出数は昨年度と比較すると、徐々に増え始めている。図書館便りの発行や新刊図書案内、掲示板の利用、イベントの企画などすべての生徒が興味・関心を持てるよう創意工夫している。</p>	<p>長する、本と接する機会やイベントを実施するなど、検討していただきたい。</p>	<p>ンターシップや職場見学など、職業理解の機会を設定する。</p> <p>○図書関係では、すべての生徒にとって図書館が利用しやすいと実感できるよう、工夫を重ねる。また入館しやすい雰囲気作りを大切に、図書館運営の充実に努める。</p>
<p>人権教育の推進</p>	<p>① 自尊感情を高める教育を推進するとともに、人権尊重の精神の涵養に努める。</p> <p>② 一人一人の人権を尊重し、他者と協働して活動できる力を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「自分や他者を大切に思う心や態度が育っている」生徒の割合が70%以上。</p> <p>②「様々な人権問題の解決に向けて真剣に考えている。」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 「人権に関する意識調査」の結果を基に、その後の指導に活用する。</p> <p>①-2 年間1回人権教育行事を実施する。</p> <p>①-3 各学年で年間1回以上研究授業を実施する。</p> <p>②-1 「人権の日」を年間11回実施する。</p> <p>②-2 人権学習HR活動に生徒が主体的に参加し、考える場となるようワークショップによる学習を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は77%、「あてはまらない」8%であった。</p> <p>②「あてはまる」と答えた生徒の割合は74%、「あてはまらない」13%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 意識調査を行い、様々な人権課題について、人権の日やHR活動で取り上げた。</p> <p>①-2 人権教育映画を全校生徒で鑑賞した。短い生涯を清々しく生きさせた主人公から、命ある一日の大切さを教えてくれる希望と感動の実話であった。</p> <p>①-3 各学年で計画通り実施できた。</p> <p>②-1 計画通り実施できた。</p> <p>②-2 人権学習HR活動では、各学年ともワークショップ（体験的参加型学習）を取り入れた学習を実施し、生徒が主体的に取り組むことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>A</p> <p>（所見）</p> <p>校内体験学習は、民間教育団体と連携し、4月及び1月に3回実施した。仲間づくりについて講義・ワークショップ形式で行い、自他ともに大切にすることについて学ぶことができた。</p> <p>人権学習は、ワークショップを取り入れている。この手法により、参加者の態度や意欲が喚起され、積極的な行動につながる。ファシリテーターを務める教員の技能も重要な要素となる。</p>	<p>○人権学習における活動において、活発な意見交換がなされ、生徒が主体的に参加できるような授業展開ができています。これからも生徒をより良く伸ばす教育活動に取り組んでほしい。</p>	<p>○校内での人権教育推進体制を確立し、人権教育の推進を図る。人権教育をホームルーム活動をはじめとする全ての教育活動に位置づけ、全教職員で取り組む。</p> <p>また、人権学習は自尊感情を大切に、主体的に考えるワークショップ形式を取り入れ、人権意識の一層の向上を図る。</p>
<p>生徒指導の徹底</p>	<p>① 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、正しいルール・マナーを習得させる。</p> <p>② いじめを早期に発見する態勢を整えるなど、安全教育の徹底を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「頭髪・服装等の身だしなみを整えている」、「挨拶をよくしている」生徒の割合が90%以上。</p> <p>②-1 「学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」生徒の割合が70%以上。</p> <p>②-2 「交通ルールや交通マナーを守り、交通事故の未然防止に努めている」生徒の割合が90%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 学年集会などを通してルール・マナーを習得させ、問題行動の発生を未然防止する。</p> <p>①-2 学年主任会などで教員間の連携を密にし、些細なことも話し合い、情報の共有</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は88%、保護者の割合は、70.7%であった。</p> <p>②-1「あてはまる」と答えた生徒の割合は39.4%、「あてはまらない」25.0%、「わからない」35.6%であった。</p> <p>②-2「あてはまる」と答えた生徒の割合は90.2%、「あてはまらない」6.1%、「わからない」3.7%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学年集会や日常の観察等で機会を捉え指導を行い、問題行動等の発生を未然に防いだ。</p> <p>①-2 学年主任会を年間5回開催し情報を共有した。また、課題に対して組織的に対応した。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p> <p>「生徒が主体的に参画する校則」の見直しを実施した。全校生徒からの意見を受け付け、周知を図るとともに、学校ホームページでも公開した。</p> <p>いじめや問題行動については、学校生活アンケートを通して個人面談を行うなど細かな対応をすることでトラブルの未然防止と生徒の実態把握に努めている。</p>	<p>○校則見直しについての取組は、生徒の意見も取り入れていただきたい。</p> <p>○自転車利用者のヘルメット着用を浸透させてほしい。</p>	<p>○学校生活や人間関係に悩みを持つ生徒が少なからずいる。アンケートの実施や面談を通して、生徒理解と情報共有に努め、早期発見・早期対応に努める。</p> <p>また、今年度生徒が主体的に参画する校則見直しを実施した。すべての生徒が気持ち良く学校生活ができるよう次年度もさらに検討を重ねる。交通安全啓発活動についても、関係諸機関や近隣中学校と連携を図りながら進める。ヘルメットの着用率は10%に満たない状況であり、着用促</p>

		有と組織的な対応を行う。 ②-1 年間2回学校生活アンケートと個人面談を実施する。 ②-2 交通事故の未然防止のため、関係機関と連携し、多様な啓発活動を行う。	②-1 アンケート実施後、個人面談を行うことで問題の早期発見と対応につなげた。 ②-2 年間計画を立て、交通安全教室や車体検査、登校時の立哨指導、毎月20日の交通安全の日などを実施した。	また交通安全指導については、毎朝の立哨指導や生徒会役員の啓発活動など目に見える形での取り組みを行うことで、生徒の交通安全意識の向上につながっている。	進に向けた取組が必要である。
環境・防災教育の推進	①環境美化活動を推進し、環境問題に取り組む態度と実践力の育成を図る。 ②地域の課題を探究し、その解決に取り組む発想力と行動力を育成する。	評価指標 ①「清掃に積極的に取り組んだり、ゴミの分別や節電・節水に努めている」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「防災避難訓練や防災教室に参加することで、防災に対する意識が高まった」と思う生徒の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は78.6%、「あてはまらない」13.7%、「わからない」7.7%であった。 ②「あてはまる」と答えた生徒の割合は77.3%、「あてはまらない」6.8%、「わからない」15.9%であった。	総合評価 (評定) A (所見) 日頃から清掃活動の徹底に努め、校舎内の環境も整備されている。 防災関係については、年間計画に基づいて実施している。防災士の資格取得や阿波市防災フェスタへの参加などボランティア活動も継続して実施している。	○ボランティア活動では積極的に学校から参加していただき、良い行事となっている。 ○本校は今年度、とくしまGXスクールの認定(3年間)を受けた。環境委員会をはじめとして学校全体で清掃の徹底とゴミの分別、環境整備や美化活動、節電・節水に取り組む。 ○防災、ボランティア活動は、コミュニティスクールの活用等、地域と協働して体験的に取り組むことで、次代を切り拓く社会のリーダー育成に努める。
		活動計画 ①-1 日頃からゴミの分別を推進する。 ①-2 日頃から節電・節水に努める。 ①-3 地域の清掃活動や植栽活動などに積極的に参加する。 ②-1 消防関係団体と連携した避難訓練を実施し、生徒に避難方法や経路を十分把握させると共に地域との連携を深める。 ②-2 防災教室を実施する。 ②-3 地域のリーダーとして活躍できる実行力を養成する。	活動計画の実施状況 ①-1 教室への分別容器の設置により啓発推進した。 ①-2 校内に電気・水道使用量変遷グラフを掲示し、節電・節水につなげた。 ①-3 1・3年生によるクリーン作戦、全校生徒による学校周辺の溝清掃、環境委員及び生徒による植栽ボランティアを地域と連携し実施した。 ②-1 12月徳島中央広域連合西消防署と連携し、避難訓練を実施した。 ②-2 3月に防災教室を実施した。(予定) ②-3 防災教室で家族と避難場所を確認するよう促した。(予定)	総合評価 (評定) B (所見) 健康の保持増進を図るため、毎年授業の中でアンケート調査を実施している。食育や運動を通して健全な生活の実践を育んでいる。 教育相談に関しては、クライアントの抱える悩みを傾聴し、共感的に理解することで、援助や解決に導いている。	○達成度が低いところもあるが、アンケートの質問内容が分かりづらい部分があるのではないかと。表記の仕方を検討願いたい。
心身ともに健康な生徒の育成	①食育の充実を図るなど生徒自らが健康を保持増進できる力を養う。 ②教育相談体制の充実を図り、生徒や保護者の悩みの解消に向けて取り組む。	評価指標 ①「食生活や運動などに気を付け、健康的な生活を心がけている」生徒の割合が70%以上。 ②「教員は悩みや相談などに親身になって対応してくれる」生徒の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は74.2%、「あてはまらない」15.9%、「わからない」9.9%であった。 ②「あてはまる」と答えた生徒の割合は57.6%となっており、1年生66.7%、2年生42.6%、3年生65.0%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 健康の保持増進を図るため、毎年授業の中でアンケート調査を実施している。食育や運動を通して健全な生活の実践を育んでいる。 教育相談に関しては、クライアントの抱える悩みを傾聴し、共感的に理解することで、援助や解決に導いている。	○「ほけんだより」の発行にもあるが、アンケートの質問内容が分かりづらい部分があるのではないかと。表記の仕方を検討願いたい。 ○スクールカウンセラーが配置されており、専門の見地からの支援ができています。教職員に対する講義も実施し、教育相談体制の充実を図ることができている。
特別活動の充実	①生徒会活動・部活動やボランティア活動を活性化させ、社会性の育成を図る。 ②学校行事に主体的に取り組む姿勢を養い、集団の一	評価指標 ①「生徒会活動・部活動やボランティア活動に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が70%以上。 ②「学校行事に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は全体で64.4%であり、1年生66.7%、2年生53.2%、3年生75.0%であった。 ②「あてはまる」と答えた生徒の割合は、全体で81.2%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 豊かな心と健やかな体を育成するためには、協働的な学びの場や生徒の主体的な活動の場を	○全国的に少子化の中で、部活動の合同チームも増えている。他校の情報も取り入れることは参考になる。部活動の活性化に向け、練習のあり方や他校との合同チーム編成など工夫し、生徒が意欲的に取り組むことができるよう努める。
		活動計画 ①校内及び地域におけるボランティア活動を推進し、積極的な参加を促す。	活動計画の実施状況 ① JRC部を中心とする地域のボランティア活動参加については、少しずつその機会を増やしている。	○行事を通して、自己	

	員としての所属感を高める。	②生徒会活動・委員会活動を活発にし、連携をとりながら学校祭をはじめとする各行事を充実させる。	②阿波西祭は、4年ぶりに通常開催した。生徒会役員を中心に、生徒が工夫しながら取り組むことができた。またPTA役員によるバザーの実施、保護者からも多数参観をいただき、行事を通して集団行動の体得と責任感や連帯感の涵養を図ることができた。	設定することは有意義である。生徒には、活動についての理解を深めさせるとともに、学校と地域との連携のあり方も重要課題となっている。	肯定感が上がったという感想がある。行事は1クラスだけでなく、機会があれば学校や学年全体で実施することで教育の効果が上がると感じている。
主権者教育・消費者教育の推進	①18歳成年に対応し、主権者としての自覚と社会参画意識の涵養を図る。 ②持続可能な社会の形成に向け、積極的に行動できる消費者力の育成を図る。	評価指標 ①・②「主権者、消費者としての意識を高められている」と思う生徒の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①・②「あてはまる」と答えた生徒の割合は全体で55.3%であり、1年生64.4%、2年生42.6%、3年生66.0%であった。	総合評価 (評定) B ----- (所見) 主権者、消費者としての意識をさらに高めていくためには、主権者教育やエシカル消費の活動を通して、国や社会の課題を自分事として捉え、自ら考え判断し、行動できるよう育むことが重要である。	○18歳成人になるが、意識を高めるには時間を要する。課題は低年齢化しており、主権者・消費者教育を進めていただきたい。
		活動計画 ①主権者としての意識が醸成できるよう様々な機会を設定する。 ②関係機関と連携し、消費者としての権利や責任について自覚させるとともにエシカル消費を推進する。	活動計画の実施状況 ①阿波市と連携した選挙スクールの開催や授業を通して主権者意識を高める取組をした。 ②講演会の実施やエシカルツアー、家庭クラブの食育展や阿波ベジのPR活動、とくしまエシカル高校生委員としての活動などエシカル消費の普及啓発活動を積極的に推進し、生徒の主体的かつ深い学びを実践した。		
働き方改革	①勤務時間の管理と意識改革を図る。 ②地域資源の活用や外部人材を積極的に導入する。	評価指標 ①長期休業中の学校閉庁日を設定するとともに、計画的に年休取得ができていない教職員の割合が90%以上。 ②外部人材の活用が図られているという教職員の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①学校閉庁日における年休取得率は夏季休業中は91.6%、冬季休業中は88.6%であった。勤務時間については、総務事務システムから全教職員が把握している。 ②外部人材の活用が図られ、教育的効果は大きいと感じている教職員の割合は高い。	総合評価 (評定) A ----- (所見) 福祉コースにおいて、地域人材(社会人講師)とチームティーチングの形態で授業を実施している。専門性の高い講師を授業に活用することで生徒の興味・関心は高く、教育的効果が上がっている。	○教育レベル確保のため、現場の先生が働きやすい職場、ゆとりを持って仕事ができる環境づくりが必要である。外部人材を活用しながら取り組んでいただきたい。
		活動計画 ①長期休業中の学校閉庁日を設定し、計画的な年休取得を促す。 ②授業や特別支援教育における外部人材を効果的に活用する。	活動計画の実施状況 ①夏季休業中に2日間(8/14、8/15)、冬季休業中に2日間(12/28、1/4)の学校閉庁日を実施した。 ②外部人材を導入し、社会人講師6名、スクールカウンセラー1名、部活動指導員1名が教育指導に当たった。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった